

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
吉 陽

教育の責任

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
日本語 A1①	1	15	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語 B1①	1	15	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語リテラシーA(留学生)	1	30	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語 A2①	2-4	30	講義	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語 B2①	3-4	10	演習	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語リテラシーB(留学生)	1	40	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語演習 B	1	40	講・演	選択	専門基礎・共通 (コース共通の専門科目)

教育の理念

グローバル化が急速に進む現代において、言語能力は重要なスキルの一つであることは確かであるが、それ以上に、文化や社会に対して複眼的な視点を持ち、物事を観察・分析する力は不可欠な資質であると言っても過言ではない。大学の教員として、日本だけではなく、将来世界という舞台上で活躍する人材を育てるという自覚を持って教育活動に従事している。日本語・日本文化の学習を通じて、物事を柔軟かつ多角的に観察・分析する力を身につけてもらえるような授業を目指す。

教育の方法

1) 文型や語彙を分かりやすく導入し、さらに学習者の理解を深めるために、写真、音声、映像など視聴覚の教材を積極的に使っている。“生”の視聴覚教材を使うことで、至るところに日本語を勉強する素材があるということを学習者に伝え、彼らに日本語、ないし日本社会・文化に興味を持ってもらうきっかけを作ることを目指す。

2) 学習者の興味・関心を喚起し、学びへの自発的な参加を促すために、ポピュラーカルチャー（特にサブカルチャー）を教育素材として積極的に取り入れている。具体的なテーマとしては、「若者言葉」「推し活」など、幅広くポピュラー文化のテーマを取り上げている。また、ポピュラーカルチャーを教えることは最終の目標ではなく、社会、文化、言語の変容について考えるための糸口を提供し、日本ないし世界への理解を深め、多面的・多面的な観点から物事をアプローチする力を育てることが私の目指したいところである。

3) アウトプットを重視する授業を行う。グループディスカッションを積極的に取り入れることを通して、導入されたテーマや概念に対する学習者の理解を深める。そして、学習者の日本語での「伝える」力、さらに大学で必要とされている「考える」力の育成に努める。

教育の成果 および 今後の目標

1) 視覚・聴覚を活用した教材の提示により、語彙や表現の定着が促進され、抽象的な文法項目も具体的なイメージと結びつけて学ぶことができた。授業アンケートでは、「生き生きとした教材を使ってくれるので、学びやすく、楽しく感じます。」「楽しくて、わかりやすい」との学生の声をいただいた。

2) アウトプット中心の活動によって、学習者は自らの意見を日本語で的確に伝える力を培い、他者と意見を交わしながら論理的に考える力を向上させた。

学生アンケートにおいては、「授業の講義資料を Google Classroom 等で共有し、事前学習に活用したい」との要望が寄せられた。こうした声を踏まえ、今後は授業内の活動と授業外の学習を結びつけることを目的に、Google Classroom 等の LMS をより効果的に活用し、講義資料・補足動画・参考リンク等を適切なタイミングで提供していく予定である。あわせて、学習者が自律的に復習・予習を行える学習環境の整備に努める。

参考資料

授業アンケートの回答であるため、非公開とする